

2021年1月19日

2020年12月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は学参テキスト関連、包装紙関連の動きは堅調であったが、その他小ロットの動きが見られたものの、大口案件は少なく前月に引き続き前年を下回った。

巻取は金融、不動産、冊子関連を中心に動きが鈍く前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 92.5% 巻取 83.3%）

再生紙は役所関連大口案件と再生紙指定案件の仕事減少が続いており、前月に引き続き平判、巻取共に前年を大幅に下回った。

（前年比 再生上質平判 80.8% 再生上質巻取 64.9% 再生上質計 75.9%）

（前年比 印刷用紙 A90.9%）

<A2 コート>

金融、生損保、各企業向けで保留となっていたカタログ、パンフレットや、官公庁向けで一部新規案件の動きがあったが、各業界においてコロナ禍での自粛が継続されており、各種イベントの中止、延期等で印刷案件全般の需要が大きく減少した。

また GoTo 事業の中止に伴い、中旬頃から関連する平判需要が落ち込み始めた。グロスの巻取と再生の巻取については、出版、GoTo 関連で一部新規の仕事があり前年を上回ったが全体では前年を下回った。

（前年比 平判 82.5% 巻取 95.1% 全体 85.1%）

<A3 コート>

年末年始向けに食品スーパー、量販店、衣料品、学習塾等でチラシの動きがあった。しかし、継続的な紙離れとコロナ禍の影響により前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 81.2% 巻取 78.1% 全体 79.4%）

<ノーカーボン紙>

平判は新規案件の動きも無く一般の帳票関連の動きが弱く前年を下回った。

巻取は前年の災害向け申請案件の落ち込み、また、生損保、金融関連の動きも弱く前年を大幅に下回った。

（前年比 平判 90.2% 巻取 85.5%）

<上質フォーム>

官庁関連、納付書はじめ一般の動きは弱かったが、一部マイナンバー促進案件の動きも見られ、昨年の工場トラブルでの供給不足の影響もあり前年を上回った。

（前年比 105.4%）

<包装用紙>

特殊両更は金融機関向け封筒で一部動きがあったが、前年の落ち込みが大きく実際の需要とはかけ離れた数字となった。

(前年比 140.2%)

軽包装は生花向けの袋が脱プラの動きで紙に移行しており一部に動きが見られているが、相変わらず製本会社向け雑包装用途とその他包装用途の落ち込みに回復が見られず前年を下回った。

(前年比 88.6%)

片艶晒は贈答用やネット販売の包装紙に動きが見られた。福袋など年始向けの手提げ袋にも動きがあり前年を上回った。

(前年比 105.6%)

両更晒は福袋などの年始向け手提げ袋、土産用手提げ袋、小売店のリーフレット等で動きがあり前年を上回った。

(前年比 104.7%)

色クラフトは事務用封筒の出荷が引き続き低調なままで前年を下回った。

(前年比 92.8%)

純白ロールは生花向けや菓子包装紙全般で年末年始向けの動きは見られたが、依然としてインバウンド消費向けの落ち込みが大きく前年を下回った。

(前年比 94.9%)

包装紙全体でも 96.1%と前年を下回った。

<板紙>

巣ごもり需要の影響で食品テイクアウト向けやレトルト食品、通販向けは堅調であったが、土産物や POP は低調であった。チップも出版、児童向け(パズル等)の需要は堅調であったが、貼り箱等の需要は低調で前年を下回った。

(前年比 91.4%)